



奥びわ湖スポーツの森のハス／長浜市

好不調が混在した、 まだら模様の状態

しがぎん経済文化センター（産業・市場調査部）

県内景気 天気図



凡例
 ☀️ 晴れ ☁️ 晴れ一時曇り
 ☁️ 曇り ☁️ 曇り一時雨 🌧️ 雨

前月比
 📈 上昇・好転 📊 横ばい
 📉 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数でみると、原指数の前年比は3か月連続、季節調整済指数の前月比は2か月連続でそれぞれ上昇したものの、伸び率はともに前月に比べ鈍化し、また、季調済指数の3か月移動平均値は横ばいの低水準で推移し、弱含みとなっている。

需要面では、大型店の中の大型専門店の販売額は比較的堅調に推移し、乗用車の新車登録台数は2か月連続で前年を上回った。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は3か月ぶりの大幅プラス、新設住宅着工戸数は貸家がマイナスとなったが、持家と分譲住宅がプラスとなったため、全体では2か月ぶりに前年を上回った。しかし、百貨店・スーパー販売額はウエートの高い飲食料品が堅調に推移しているものの、他の品目が伸び悩んだため、全店ベースでは4か月ぶりのマイナス、既存店ベースでは5か月連続のプラスとなったものの微増にとどまった。また、軽乗用車の販売台数は燃費改ざんの影響から低水準かつ8か月連続の大幅マイナスとなった。さらに、公共工事の請負金額は5か月連続の大幅減少となっている。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人数は12か月連続のプラス、一方、新規求職者数は微減にとどまったため、新規求人倍率、有効求人倍率はともに前月に比べ低下した。

また、5月に実施した「県内企業動向調査」によると、今回調査（4-6月期）での自社の業況判断DIは-13で、前回（1-3月期）の-16から3ポイント上昇し、マイナス幅はやや縮小したものの、依然大幅のマイナス水準にあり、県内企業の景況感は引き続き厳しい状況が続いているとみられる。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は低水準が続き弱含みの状態にあり、需

要面では個人消費の中にも底堅い動きはみられるが、全体に力強さに欠けた状態が続いている。一方、民間設備や住宅着工などの投資関連では一部で前向きな動きがみられる。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調のなかで、好不調が混在した、まだら模様の状態にあると考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、急激な円高の進展や新興国の景気低迷に加え、今般の英国のEU離脱が輸出関連産業を中心に悪影響を与えると考えられるため、全体に弱含みの展開が想定される。また、需要面では、個人消費は景気の先行き不透明感、家計収入の伸び悩み、株安によるマインドの悪化といった懸念材料が根強いいため、全体に力強さに欠けた弱含みの展開になると思われる。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では金利低下の効果が一部で出てこようが限定的と考えられる。したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調が続くものの、一進一退の弱含みで推移するものとみられる。

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、新興国経済減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては回復を続けている。

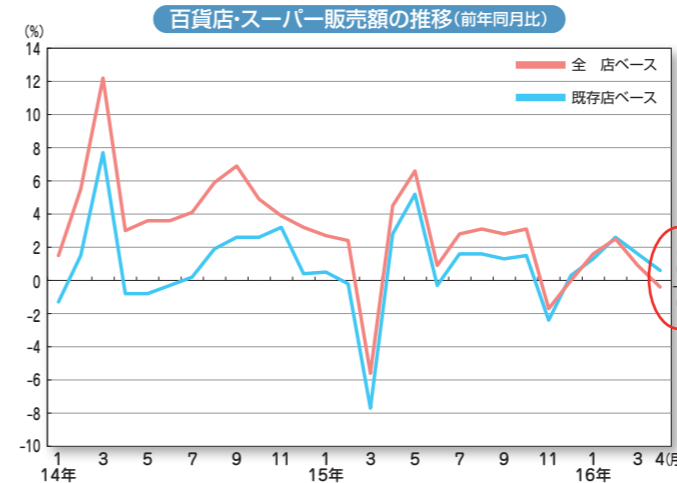
個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては底堅く推移している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産は、増勢が鈍化しており、輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。労働需給は引き続き改善しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

6月短観における全産業の業況判断D.I.は、「悪い超」へ転化している【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」（7月13日発表）より】

「百貨店・スーパー販売額」（全店ベース）は4か月ぶりのマイナス

2016年5月の「可処分所得（大津市・勤労者世帯）」は2か月ぶりに前年を下回り（前年同月比-5.5%）、「家計消費支出（同）」も2か月ぶりのマイナスとなった（同-15.1%）。なお、「毎月勤労統計調査」における3月の「名目賃金指数（現金給与総額、事業所規模30人以上、2010年=100）」は90.7、同+4.0%で、2か月連続のプラスとなった。

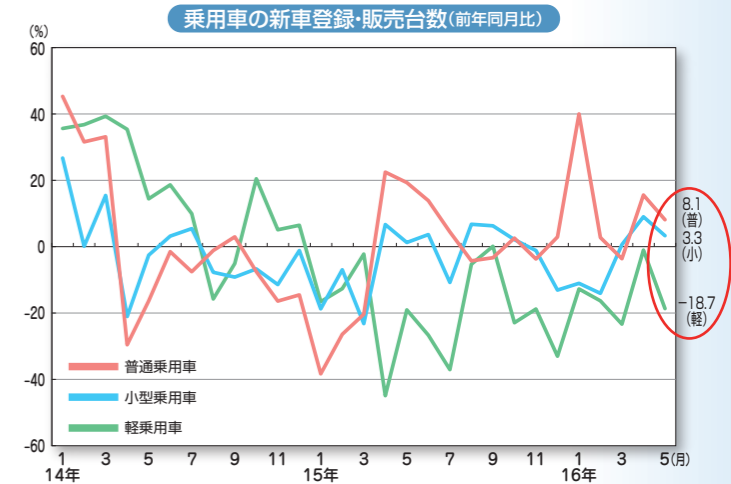
このような所得・消費環境のなか、4月の「百貨店・スーパー販売額（全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は95店舗）」は21,662百万円、前年比-0.4%と、4か月ぶりのマイナスとなった。品目別にみると、ウエートの高い飲食料品は35か月連続のプラス（同+0.9%）となっているものの、衣料品は6か月連続のマイナス（同-4.1%）、家電機器は2か月連続のマイナス（同-4.4%）、家庭用品は5か月ぶり（同-8.6%）、身の回り品は2か月ぶり（同-5.9%）のそれぞれマイナスとなった。一方、「既存店ベース（=店舗調整後）」の売上高は、全店ベースと比べるとほとんどの品目はほぼ同じ状況だが、飲食料品の増加幅が大きいため（同+2.3%）、全体では5か月連続のプラスとなっている（同+0.6%）。「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額（全店ベース=店舗調整前）」によると、4月の「ドラッグストア」（165店舗）は4,768百万円、前年同月比+6.7%で13か月連続のプラスとなり、好調に推移している。また、「家電大型専門店」（38店舗）は2,944百万円、同+4.5%で3か月ぶりのプラス、「ホームセンター」（63店舗）も3,411百万円、同+4.2%で2か月ぶりのプラスとなった。



「乗用車新車登録台数」は2か月連続のプラス

5月の「乗用車新車登録台数（登録ナンバー別）」をみると、「小型乗用車（5ナンバー車）」が3か月連続のプラスとなり（1,153

台、前年同月比+3.3%）、「普通乗用車（3ナンバー車）」も2か月連続のプラスとなったため（1,370台、同+8.1%）、2車種合計では2か月連続のプラスとなった（2,523台、同+5.9%）。一方、「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響に燃費改ざんの影響が加わり、低水準かつ8か月連続の大幅マイナスとなった（1,311台、同-18.7%）。



「新設住宅着工戸数」は2か月ぶりのプラス

5月の「新設住宅着工戸数」は673戸、前年同月比+4.0%で、2か月ぶりのプラスとなった。利用関係別でみると、「貸家」が176戸、同-25.7%（大津市70戸など）で2か月連続のマイナスとなったものの、「持家」は349戸、同+4.5%（大津市62戸など）で2か月連続のプラス、「分譲住宅」は148戸、同+94.7%（草津市70戸など）で2か月ぶりの大幅プラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は再び前年を上回り（88戸、前年差+12戸）、「分譲マンション」も3か月ぶりの申請となった（60戸、同+60戸）。なお、「給与住宅」は6か月連続で申請がなかった。

